

「狭間の苦悩」

学術情報基盤センター長 鏑 木 誠

例年、2～3月は退職される先生方の最終講義のシーズンで、先生方の教育研究内容に感銘を受ける機会も多くなります。かく申す私も今年定年を迎える年になり、2月に「狭間の温もり－神戸大学での35年－」と題した最終講義をさせていただきました。内容は、私が神戸大学で果たした役割を、「物理及び関連分野の狭間を繋ぐ」、「理系（情報系）と文系を繋ぐ」、「教養（共通）教育と専門教育を繋ぐ」、「事務系と教員系を繋ぐ」、「インフラ支援組織と他部局等を繋ぐ」の5つほどに分け、前半、後半の2部構成で紹介しました。前半では、私の出身分野の物性理論と他分野を繋ぐ仕事、特に楽しく成果を上げることの出来た実験屋・素粒子理論屋さんとの共同研究やコンピュータを使った量子スピン系の研究等の紹介を行い、後半では、教養部改組後の私が所属した国際文化学部、自然科学研究科、総合人間科学研究科、国際文化学研究科での理系（情報系）と文系を繋ぐ教育研究内容、教育工学への関わり、私が指導した学位論文の成果等を中心とした話をして、最終講義に代えさせていただきました。題の「狭間の温もり」に込めた私の思いは、このように種々の異分野の狭間を繋ぐ役割を皆様のご支援により楽しく快適に果たすことが出来た感謝の気持ちで、国際会議などで訪れた先々で集めた趣味の民族楽器なども展示し皆様に感銘をと言うより楽しんでもらえるような雰囲気作りに努めました。

ここでは、最終講義では話せなかったことを2、3述べたいと思います。1つ目は、「モノとコトについて」です。最近、「モノからコトへ」と言うコピーを色々な文脈で見かけるようになりました。例えば、哲学の分野では「モノ（実体）そのものが存在するのではない。コト（関係）の中からモノが見えてくるのである。」とか、マーケティングでの「もうモノを売る時代ではない。モノを使ってコトを売る時代だ。」とか、サブプライムに対する「モノ（構造・形）とコト（機能・働き）を混同するべきでない。」との批判等々。このような「モノ」重視から「コト」重視の流れを、更に抽象化・一般化して体系的に扱うことを考えてみました。アイデアは、時空を創造した宇宙のビッグバンから借用したもので、宇宙の温度低下とともに原子（モノ）と相互作用（コト）が同時に生成される過程のアナロジーです。それによる最近の「情報」重視の傾向の分析を試みたいと考えています。

2つ目は、大学が生涯教育に果たす役割についてです。私がこのことを考えるようになったきっかけは、67歳で学位を修得した院生（「生涯学習と図書館」神戸大学附属図書館報 Vol.11 No.4. <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kanpo/11-4/11-4-1.html> 参照）を指導したことにあります。以前は、専門性の強い大学が生涯学習に役割を果たせるのだろうか？との疑問を持っていましたが、そのことにより、現在は非常に肯定的な立場に変わりました。

また、私が担当した総合人間科学研究科、国際文化科学研究科は社会人入学も非常に多く、「自分探しタイプ」、「教養学習タイプ」、「資格取得タイプ」、「研究者タイプ」等々、様々なタイプの院生が入学しており、既に生涯学習的側面を発揮しております。これからの大学教育の方向性には「基礎研究重視型」、「応用研究重視型」等々、様々な道があるかと思いますが、その中に専門性を生かした生涯教育を指向する「生涯教育重視型」も選択肢の1つになるのではないかと考えています。

3つ目は、大学内における当センターのようなインフラ支援組織の問題です。他大学の情報系センターの広報誌には「情報系センター教職員がネットワークや情報基盤の整備と安定運用に多大な労力と時間をかけて努力しているにも係わらず、他部局の教職員からは苦情ばかりで理解が得られず、その苦勞が報われない。」との主旨の文章がよく載っています。いわば「狭間の苦悩」とも言うべき問題で、私もセンター長になってから、ことある毎に同様のことを感じます。この苦悩の原因は多岐に渡り、一朝一夕の解決は難しいと考えています。ICTを専門とする技術系職員の養成を取り入れた人事制度の拡充も必要な施策と考えられます。また、教職員の方々に、「ネットワークを利用は神戸大学構成員としてであり、セキュリティポリシー等の遵守が必要であること」を自覚して頂ければ、大分苦悩も軽減されるのではないかと思いますので、教職員の方々にはご協力をよろしく御願い申し上げます。

さて、2期4年務めた学術情報基盤センター長の任期も残すところあと数日となりました。この間のセンター教職員の献身的な努力で導入したシステムも順調に稼働し、来年度には、当面の最大の課題であったネットワーク整備の概算要求も認められ、次期ネットワーク（KHAN2009）の整備が行われる予定です。私がこれまでセンター長を務められたのも担当理事（北村理事、堀尾理事、土井理事）、富田情報管理室長はじめ関係各位の皆様のご協力のおかげと心より深謝しております。今後とも、当センターに関係される総ての方々の格段のご理解ならびに御協力をお願い致します。最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍ならびに神戸大学の益々の発展を祈念しながらこの巻頭言を終わりたいと思います。長い間、ご支援有り難う御座いました。